

Colors & Shapes 色の遣い・形のありさま

—周逸喬・賀蘭・隗楠 三人展 Series2—

2023年5月9日(火)～5月27日(土) 於:桃青京都ギャラリー

技法とコンセプトのご紹介



周逸喬 (シュウ・イツキョウ)

周逸喬は、ジェンダーや生死観の視線で生活の断片的な現象を捉え、漆芸とアクリル絵画を創作しています。本展では周が近年手がける「蘭花指」(らんかし)をモチーフにしたオブジェ6点と、「生死疲労」(しょうじひろろ)シリーズのアクリル画3点を展示いたします。

近年の「蘭花指」のシリーズは、人間の手というモチーフに執着しています。最初はジェンダーレスである印相に由来する伝統的な要素でしたが、やがて中国演劇では封建社会の中で生きる女性の象徴として引用されるようになりました。また現代社会に存在する男女の格差をも示し、蘭花指は、中国文化において女性や男性のアイデンティティがいかに伝統的な理想に囚われているのかという事実を突きつけます。私がこの仕草を「装飾的」または「楽しい」ものとして強調するのは、社会が暗に要請してきたネガティブな意味合いを取り除こうとする態度からです。また、絵画では仏教における輪廻転生の概念を背景に、残酷な死亡である命の逝去と新生命へのお祝いが混じり合うような場面を描いています。(周逸喬)



賀蘭 (ガ・ラン)

賀蘭は、伝統的な漆芸を学んだ上で、現代アートにおける漆の新しい可能性を探求しています。本展では、漆・色漆・乾漆粉・螺鈿・アルミ粉・金属・卵殻・銀箔など多様な素材を用いた加飾技法による絵画9点とオブジェ1点を展示いたします。

パソコンや、携帯電話など現代技術の発展で構築された充実したインターネット環境は、様々な課題を解決すると同時に、技術が生命や生態系に溶け込むことで、より複雑な問題も派生させています。例えば人の感情や、自分に対する意識、他人との関係性、大きく言うと倫理的な問題、社会問題などです。特に、新型コロナウイルスの感染蔓延は、殆どのコミュニケーションがリモートになることにより、「人間性の喪失」と「心の病気」の問題を現実的に浮かび上がらせました。あらゆるものが侵食されていく現代において、私はそれに対して感じた「危機感」と向き合い、人に考えさせる作品作りを目指しています。(賀蘭)



隗楠（ウェイ・ナン）

隗楠は、飛鳥時代からの伝統工芸技法である漆皮技法を探究しています。皮革を漆で固めることにより造形する過程において、欠点とされる傾向にある素材の変形を生かし、柔軟性や伸縮性といった皮革本来の特徴を全面に引き出し表現しています。本展では、生皮を使った漆皮技法による作品1点を展示いたします。

私は動物の命から得た皮革素材は生き物と感じ、その命を漆を用いて形に留め再び命の力を感じさせる作品を作りたいと思っています。皮革を引っ張ったり、皺を付けたりする制作過程の中で、偶発的な形との出会いがあり、その自由な形と美しい曲面を漆で留めることにより、自然の造形のような生命力溢れる豊かな表現を生み出したいと思っています。（隗楠）